

企画セッション | 合同セッション：合同セッション1（「将来原子力システムのための再処理技術」研究
専門委員会、再処理・リサイクル部会）

📅 2020年9月16日(水) 13:00 ~ 14:30 | 🏢 F会場 Zoomルーム6

[1F_PL] 将来原子力システムのための再処理技術

座長: 松田 孝志(原燃)

[1F_PL01] 専門委員会の活動趣旨について

*鈴木 達也¹ (1. 長岡技科大)

[1F_PL02] 再処理のシーズ

*飯塚 政利¹ (1. 電中研)

[1F_PL03] 再処理のニーズ

*島田 隆¹ (1. MHI)

[1F_PL04] パネルセッション

「将来原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会、再処理・リサイクル部会
合同セッション

将来原子力システムのための再処理技術
Fuel Reprocessing Technologies for the Future Generation

(1) 専門委員会の活動趣旨について

(1) Introduction of Research Committee

*鈴木 達也
長岡技大

(2) 再処理のシーズ

(2) Innovative technologies Available for Reprocessing

*飯塚 政利
電中研

(3) 再処理のニーズ

(3) Requirement for New Reprocessing

*島田 隆
三菱重工

現在、使用済燃料再処理の役割は、核燃料サイクルの要となるプラットホームとして、廃棄物処分の負荷低減に寄与し、核種分離をも伴うものへと深化しつつあること、将来の原子力システムが、エネルギー利用のみならず、医療や研究など多様な用途での利用が想定され、再処理技術に関しても、これら原子炉等で利用した使用済燃料の処理についても検討が必要になってきている。また、再処理技術は、単独で成り立つものではないので、軽水炉燃料、高速炉 MOX 燃料、金属燃料等の燃料製造側からの視点や処分の観点、プルトニウムのマネジメントなど、様々な観点から考えていく必要がある。

このセッションは、再処理・リサイクル部会と「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会で行う合同セッションであり、「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会では、上記のことを踏まえて、近未来のみならず、100 年先の将来の原子力システムへの対応を見据え、様々な炉型や燃料からの再処理に関する要件の調査や、再処理に関連する技術、再処理の発展や深化に係わる科学について調査を行い、議論を行っている。

また、令和元年の8月には、再処理・リサイクル部会と合同で、セミナーを開催し、そのセミナーでは多くの学生や若手研究者を集め、将来の再処理技術の在り方について議論する場を設け、グループ討論を行い、学生らの貴重な意見を集めた。

今回のセッションでは、研究専門委員会で調査してきた状況等について報告すると共に、再処理・リサイクル部会夏季セミナーでの、学生らの考え方を紹介し、原子力学会員の方々と将来の原子力システムと再処理、核燃料サイクルについて議論を行いたく、実施するものである。

(1)*Tatsuya Suzuki, (2)*Masatoshi Iizuka, (3)*Takashi Shimada

(1)Nagao Univ. Technol.. (2)CRIEP, (3)MHI

「将来原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会、再処理・リサイクル部会
合同セッション

将来原子力システムのための再処理技術
Fuel Reprocessing Technologies for the Future Generation

(1) 専門委員会の活動趣旨について

(1) Introduction of Research Committee

*鈴木 達也
長岡技大

(2) 再処理のシーズ

(2) Innovative technologies Available for Reprocessing

*飯塚 政利
電中研

(3) 再処理のニーズ

(3) Requirement for New Reprocessing

*島田 隆
三菱重工

現在、使用済燃料再処理の役割は、核燃料サイクルの要となるプラットホームとして、廃棄物処分の負荷低減に寄与し、核種分離をも伴うものへと深化しつつあること、将来の原子力システムが、エネルギー利用のみならず、医療や研究など多様な用途での利用が想定され、再処理技術に関しても、これら原子炉等で利用した使用済燃料の処理についても検討が必要になってきている。また、再処理技術は、単独で成り立つものではないので、軽水炉燃料、高速炉 MOX 燃料、金属燃料等の燃料製造側からの視点や処分の観点、プルトニウムのマネジメントなど、様々な観点から考えていく必要がある。

このセッションは、再処理・リサイクル部会と「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会で行う合同セッションであり、「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会では、上記のことを踏まえて、近未来のみならず、100 年先の将来の原子力システムへの対応を見据え、様々な炉型や燃料からの再処理に関する要件の調査や、再処理に関連する技術、再処理の発展や深化に係わる科学について調査を行い、議論を行っている。

また、令和元年の8月には、再処理・リサイクル部会と合同で、セミナーを開催し、そのセミナーでは多くの学生や若手研究者を集め、将来の再処理技術の在り方について議論する場を設け、グループ討論を行い、学生らの貴重な意見を集めた。

今回のセッションでは、研究専門委員会で調査してきた状況等について報告すると共に、再処理・リサイクル部会夏季セミナーでの、学生らの考え方を紹介し、原子力学会員の方々と将来の原子力システムと再処理、核燃料サイクルについて議論を行いたく、実施するものである。

(1)*Tatsuya Suzuki, (2)*Masatoshi Iizuka, (3)*Takashi Shimada

(1)Nagao Univ. Technol.. (2)CRIEP, (3)MHI

「将来原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会、再処理・リサイクル部会
合同セッション

将来原子力システムのための再処理技術
Fuel Reprocessing Technologies for the Future Generation

(1) 専門委員会の活動趣旨について

(1) Introduction of Research Committee

*鈴木 達也
長岡技大

(2) 再処理のシーズ

(2) Innovative technologies Available for Reprocessing

*飯塚 政利
電中研

(3) 再処理のニーズ

(3) Requirement for New Reprocessing

*島田 隆
三菱重工

現在、使用済燃料再処理の役割は、核燃料サイクルの要となるプラットホームとして、廃棄物処分の負荷低減に寄与し、核種分離をも伴うものへと深化しつつあること、将来の原子力システムが、エネルギー利用のみならず、医療や研究など多様な用途での利用が想定され、再処理技術に関しても、これら原子炉等で利用した使用済燃料の処理についても検討が必要になってきている。また、再処理技術は、単独で成り立つものではないので、軽水炉燃料、高速炉 MOX 燃料、金属燃料等の燃料製造側からの視点や処分の観点、プルトニウムのマネジメントなど、様々な観点から考えていく必要がある。

このセッションは、再処理・リサイクル部会と「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会で行う合同セッションであり、「将来の原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会では、上記のことを踏まえて、近未来のみならず、100 年先の将来の原子力システムへの対応を見据え、様々な炉型や燃料からの再処理に関する要件の調査や、再処理に関連する技術、再処理の発展や深化に係わる科学について調査を行い、議論を行っている。

また、令和元年の8月には、再処理・リサイクル部会と合同で、セミナーを開催し、そのセミナーでは多くの学生や若手研究者を集め、将来の再処理技術の在り方について議論する場を設け、グループ討論を行い、学生らの貴重な意見を集めた。

今回のセッションでは、研究専門委員会で調査してきた状況等について報告すると共に、再処理・リサイクル部会夏季セミナーでの、学生らの考え方を紹介し、原子力学会員の方々と将来の原子力システムと再処理、核燃料サイクルについて議論を行いたく、実施するものである。

(1)*Tatsuya Suzuki, (2)*Masatoshi Iizuka, (3)*Takashi Shimada

(1)Nagao Univ. Technol.. (2)CRIEP, (3)MHI

企画セッション | 合同セッション | 合同セッション1 (「将来原子力システムのための再処理技術」研究専門委員会、再処理・リサイクル部会)

[1F_PL] 将来原子力システムのための再処理技術

座長:松田 孝志(原燃)

2020年9月16日(水) 13:00 ~ 14:30 F会場 (Zoomルーム6)

[1F_PL04]パネルセッション

将来の原子力システムは、単に今までの技術の延長線上にあるだけでなく、また、エネルギーへの利用だけではなく、様々な分野に広がっていくと予想される。将来の原子力システムにおいても再処理は、核燃料サイクルの要となるプラットフォームとしての役割を果たしていかなければならない。このセッションでは、将来ありうる原子力システムと再処理、核燃料サイクルについて理想を求めて議論を行うものである。